



ジェネラリストのための これだけは押さえておきたい皮膚疾患

安部 正敏 著

A5 頁248 2016年

本体 4,000円＋税

[ISBN978-4-260-02483-9] 医学書院刊

評者 切手 俊弘

彦根市立病院診療局主任部長兼外科部長

「皮膚科はいろいろな皮疹をたくさん経験することが大切です」私が学生のときに、ある皮膚科の先生に言われた言葉です。当時、皮膚科のカラーアトラスを読んで皮疹の特徴を覚えたのですが、カラーアトラスには詳細な記載がないので、また別の教科書で、その疾患の診断や治療法を勉強したものでした。皮疹の種類があまりにも多すぎて、臨床を知らない私にとっては、その疾患の頻度などもわからず、必死に覚えただけで、結局忘れてしまうことがほとんどだったと記憶しています。

ジェネラリスト、つまり皮膚科の“非専門医”にとっての「これだけ知っておけばよい」99疾患がセレクトされていることが、本書のお薦めポイントの一つです。99疾患あれば、ジェネラリストが遭遇する日常の皮膚疾患は十分網羅されていると思います。逆に本書に掲載がなければ、専門医へコンサルトしてよいでしょう。

本書は、皮疹の写真やその特徴、検査、鑑別診断、治療などが順番に掲載され、この一冊で疾患を十分に理解できるようになっています。しかも「患者への説

明」「専門医へのコンサルトのコツ」が記されているので、皮膚科を専門としない医師にとっては、いわゆる“お手本”のようなものです。

各疾患の最後に掲載されている「スキルアップ」や「ちょっと脱線」というコラムも面白いです。筆者の安部先生らしい考えや書き方が、興味をそそります。ここに散りばめられた皮膚科的な雑学などは、ジェネラリストにとっては別な疾患との鑑別などにも役立つかもしれません。本書のボリュームと判型も程よいです。空いた時間に移動の時間にカバンから取り出して、“斜め読み”で活用するにも適した一冊です。

本書のタイトルには“ジェネラリストのための”とあえて追記されています。皮膚科を専門としない医師だけでなく、皮膚科学を勉強する医学生や、総合的な広い見地が必要な研修医にも最適な本です。そして専門医が活用しても十分に役立つテキストブックだと思います。

皮膚科疾患はこの一冊で十分です。私の本棚に並ぶ皮膚科の教科書は、今後この一冊だけになります。安心して日常の診療に活用できるとお薦めいたします。